

# 本草圖譜

穀部

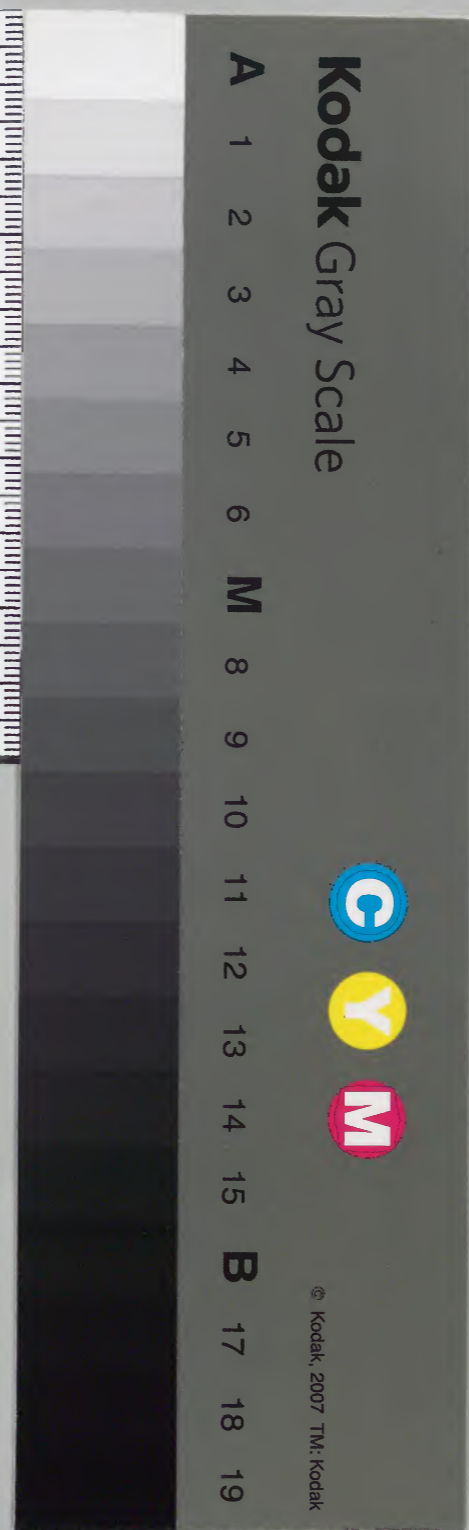
其

農商務省  
圖書  
第二〇七號  
共二十七冊

和書門  
八四二四  
類號函架冊  
七二

內閣文庫  
和書  
八四二四  
函架冊  
九六三二架

內閣文庫	
番號	和 8424
冊數	72 (36)
函號	196 190



# 本草圖譜

本草圖譜卷之四十四目錄

明治十二年購求

## 穀部

一 種	一 說	一 種	一 種	胡 麻 <small>ゴマ</small>
五 種	四 種	一 種	一 種	二 種
大 麻 <small>オウゴン</small>	一 種	同	一 種	一 種
六	物印忙 <small>モノヅケ</small> の圖	大 <small>オウゴン</small> の物	三 <small>ミヤギ</small> の葉の物	ミヤギ <small>ゴマ</small>
雄 <small>オウゴン</small> 木		大 <small>オウゴン</small> の物		



本草圖譜 卷之四十四目錄 一 雄木

同	雌木	八
大麥	たごまき	一種
穞麥	六角むき	九
穞麥	尾刈り産	一種
一種	かまき	一種
一種	まめき	一種
一種	苗葉小むき物	一種

糯米	とちりゆめ	十五	一種	あぶらぎ
一種	長大むき物	十六	一種	うるき
一種	うまむき	一種	一種	うるき
一種	ひんむき	一種	一種	紫色り物
一種	らびりゆめ	十九	一種	むらぎ
一種	あうが	廿	一種	たうが
朝鮮米			一種	咬啗吧米
穀奴	うるんが			

本草圖譜卷之四十

東都 岩崎常正 著

穀部

胡麻こま

ごま

セリニムシロ 籾

千ユルクセコーレンシ 荷

莫如もろ

本草和各列  
七卷食經

流朱

三光之遺い 榮も

古地之こ 更し 生せい

丸まる 變へん

合あ 腹はら

幽昌ゆう 昌しょう

人精にん 精せい

同書引  
大清經

玄秋之げん 沈しん 靈れい 上じやう

八はち 拗ぎやく

若益わく 益えき

榮えい 柴さい

油子あぶら 苗なえ 木き 草そう

春月實を下に方茎を以て兼對生一形状を參照す如て夏月葉の面は  
 花あり唇の形を以て淡紫色後角を結入右説に二後四後の物を  
 白油麻と云ふ六後八後の物を烏麻と云ふ二後或は四後肥大の物六後或  
 白皆一様なり但瘠小なる物の二後或は四後肥大の物六後或  
 八後或は後角の散を以て分別す其葉稀に葉一葉に三夾を  
 有し葉幹の如き物あり時珍の説に本圖而未分三葉如鴨掌  
 形と云ふ物是なり

一 種 みるんごま

一 種 ねむごま

一 種 うごま 烏油麻 集解 官製

一 種 しろごま 白油麻 集解 宋製



みるんごま

ねむごま

しろごま

うごま

本草綱目 卷之四十一 胡麻

同

三丁の葉の形



垂麻

ごまわん

レイシサアト

田村 紅毛

番舶載来る其實胡麻繩より大なり扇く褐色なり老澤あり

一説

かうぶるな

ドイベルスベート

蘭荷

山芥菜

木菘

山野の自生に冬を經て春月より高き四五尺一技に葉が莖に對して毛刺多し夏月葉を抽いて數枝を分ち頭小穂あり淡紅花を攢族以山蘿蔔の葉の如し中葉子あり形舶来の垂麻種に似て黒色時珍其莖穂頭似荒芥子不同と云ふ點合り

かぶらぎら



一説

リヌム 罌

フランス 荷 一

物印ウツクサの載る所の物ウツクサの形ウツクサに似たり

一 種

物印ウツクサはフランスの實の圖と同一載る所の物ウツクサの葉の地層ウツクサに似たり



細小花り大さ一寸許り五瓣あり淡紫色あり

一 種

マウゴムルンギルン

マウゴムルンギルン



原野に生じ武州煉馬邊に多し嫩苗の松の初生に似たり猶長く至り地層ウツクサ或は鹹蓬ウツクサに似たり枝を抽て五瓣の淡紫花を開く物印ウツクサに載る所のフランスに似たり



大麻

あま

知名

在圃

山能苗

根荒  
木草

好麻  
群芳譜

春即實を下りて生以兼ハ荒蔚ハ似ル七對九對一莖ハつぎ方  
 對對生以ハ雌雄麻あり雄名ハあま一名うらハあま花ありて実ハ結  
 去ハ釋名ハ氣麻牡麻と云了雌名ハあま一名うらハあま花あり  
 一実ハ結入釋名ハ首麻葦麻と云了俗ハ雌ハ花ありて実ハ結  
 ざらんハ誤りあり凡草木ハ中花ハ結入て実あり理ハ其花  
 細微容易ハ見得ざるを以てハ故多ク大麻ハ皮を毛織つたる後  
 ハ猪名あまぎ又あまが江戶少クをがらとりハ此を續麻骨類  
 相感とらんハ

雄本



同  
雌メ  
本キ



實



小麦

まろむぎ 和名  
ろむぎ 上同

秋月種を下し春月種は至り高き三四尺夏月種は初穂を抽くは  
芒あり物に蜈蚣麥縣志芒あり物を大燒麥縣志即ちぼうが  
むぎの大小麥稜の糯米縣志稷縣志黍縣志粟縣志皆品類甚  
多し通志有之縣志繁の田賦穀の産物之部は各及の其形状  
を載り本邦あり銘あり然れども和漢共一時各する所の美  
稱或の一村呼所の方言あり混濁繁雜容易辨別すべから  
り此品は飯とては但麴縣志とては物あり本朝食鑑に  
一種餅麥と云物あり即ち糯米縣志其状尋常の麥あり粘り其  
味は亦美餅は造るは赤穂好と云麥圃の中穂極て黒粉を生る  
物あり和名鈔にまろむぎと云江戸ありろむぎと云是麥  
類あり小麦大麦備あり



芒あり物

ろむぎ

ろむぎ

大麦

かぢり和名

わとむぎ上同

わとむぎ

一種

ちねんむぎ

むぎ



一種ちねんむぎ本朝ちねんむぎ粒青ちねんむぎ木朝食鑑木朝食鑑中麥中麥の極極て小小なる物形物形小  
穀穀の似て圓圓く肥肥白色白色不不味味ひト又佳又佳なりト一種はうづむぎうづむぎの芒芒あり一種は  
長長く芒短芒短きものりわゆる物あり一種はさきむぎさきむぎとやむぎやむぎ此物此物畿内畿内所々所々有  
と云り本朝食鑑本朝食鑑云細屋細屋麥麥と云物あり穂紫色穂紫色粒小粒小味ひ佳佳なり其紫色  
他他の異なるを以て此を愛愛す細屋細屋此麥此麥とて紫紫を添添るを以て民間民間細屋細屋麥麥と号  
云

穧麥

六角むぎ



穉麥ハ大麥の中より穂肥大なり六稜あり物多し本朝食鑑に華り大麥別ハ穉麥あり此大麥の中皮厚し青色あり者之穉麥二種ありハ小麥ハ類ハ大麥ハ大麥ハ類ハ小麥ハ此本邦大麥中ハあり類を分るるなり

雀麥

うすすまき

杜花草

本草和名 引繁論

アハナ

ハヘル蕎 一名 野稷

通雅

阿師 上同

鳥味草

正字通

李時珍雀麥燕麥合して一類とせり救荒本草別て二類とせり燕麥驚作今周憲王日説ハ隨て別ハ説ハ大麥ハ物ハ燕麥とあり小麥ハ雀麥とあり燕麥ハありちやまきとあり一名つまきとあり燕麥と齊ハ田圃ハあり長夫ハ分別して一類ハ穂を以て實熟するに至て初ハ穂を去る穂の形蜀黍ハ似て短ハ穂ハ對照ハ岐ハ分ち大三分の苞疎ハ著ク鬚あり初ハ綠色後ハ熟して黄色なり雀麥ハすゞりちやまきとあり一名はちやまきとありちやまきハ小麥と類ハあり

田畝の間及び路傍に生ず一技一苞鬚あり鬚と穂を去り



一種

尾刈り産



一種

一種



本草綱目 卷之四十一 十一 津園

一種



はるあき

一種

かろくわ



本草綱目 卷之四十一 十一 津園

蕎麥

ろがまき

和名

ろろまき

ろが

ハゴペイリユム

ブークウエイト

モウルス

本邦の蕎麥は及の武州深大寺河内根井伊吹峰の上と六月  
中実を下し九月中收む莖高き二三尺を以て種根上四寸深紅  
色熟り三角を以て互生し秋月穢れ小白花を攢簇し穂を結ぶ三  
稜あり性最良霜を畏る実三稜より常中穀に四稜あるをかくと  
そをとり又たいかにその一名をかく穂あり精粒のつとを其餘  
あたるをかくをその名を以て種あり一種をかくをその名を  
一年に三度熟す實大なり後高き莖蕎麥子に似て刺あり

一種

まろがまき





苦蕎麥

うごはば うりのあぶら  
たごが

一種

苗葉小く物  
尾刈より来る



田畠の路傍清澗中にある春  
月美より生ひ高さ三尺並弱く  
地を舞う葉は蕎麥の葉に似て長  
互に夏秋の間に枝を合はせ  
柱状の葉の如く初未開の時は  
紅色を以て満開を以て白  
色を以て子葉は三枚あり小く霜  
後葉根を枯らす葉葉及び花  
の苦蕎麥は花の固りて葉は小  
く圓き葉の物葉は毛刺あり物  
を社衣層引の葉翹つたの類  
を本條より別々に二種載  
せ思へば八の字の形ありて黒  
記草字の如きあり



一種

園圃の中  
自生する  
もの



薯

いね

糯  
米

もちのよね  
和名 鈔

經書歴史の書する所の薯  
糯と類と二物に通稱す  
方術本草の書に載る所の  
糯糯米と云々其物物を  
長鬚糯 後時 薯の在  
大焼糯と云々 粘りて糯  
は餅切と云々の類なり



本草圖譜 卷之四十一 五

一種

あふひが



一種

長大子物



本草圖譜 卷之四十一 五

本草綱目 卷之四十一 雜考 三十一

長大者物あり奥列白川へ鶴谷へ移るるより入るる時珍の註は  
 一種粒白如霜長三四分その是る又諸列水村の地水高  
 さ大餘の是れ稔を土彈ゆ穢い水中に投す其穀水の高下を隨ひ  
 野に是時珍有水稻高穀詩隨水而長此類あり

粳米

うるまね

和名

うるま

白江

粘り入民常の食する所の物多早熟する物をわきり  
 三をわきり其穀をよめたり粳米の釋言は時珍有早中  
 晚三穀と云是より本年穀の是る此物を以て漢土の糯米  
 あり是る時珍曰糯稻其性粘り可以釀酒其穀殼有紅  
 白二色或有毛或無毛其粒亦有赤白二色赤者酒多糟少



うる  
 ね

一種

うるまね

本草綱目 卷之四十一 雜考 三十一 粳米

本草綱目 卷之四十一 雜草類 一 種

一 種

うろこあね



本草綱目 卷之四十一 雜草類 一 種



本草綱目 卷之四十一 雜考 一

一種

ひがき

一種

紫色の物



二種共の紫芒  
稲 肆考とり

一種

とびのりね

虎掌 稻 肆考  
山堂



穂高き一尺餘其実  
飽ふりや芒あり

本草綱目

卷之四十一

雑考

一

稲

一種



あまつきつね  
くろしほ

葉列より出つ  
苗葉皆紫色  
芒又紫色  
あり

和名

あまば



早稲  
稲珍  
火名  
米名  
上同

水少く圖中ぬ  
育つるより  
穂がみせ野作  
熟するより

本草綱目 卷之四十一 穀部 一

一 種

たねとうまね

たうなう

稗の赤色  
早稲の物  
多刈り



朝鮮米

咬啗吧米



本草綱目 卷之四十一 穀部 十二 産園月



稷ミヤコ  
穀コ  
叔シ

くろくろ

穀の穂ミヤコ  
の穂コ  
黒シ  
物ミヤコ  
はコ  
穀シ  
叔ミヤコ

